

第3章 教育におけるインターネット利用 のこれまでの取り組み

(1) 100校プロジェクト (1994-1996)

日本におけるインターネットの教育利用に先導的な役割を果たしたプロジェクトで、正式名称「ネットワーク利用環境提供事業」。通産省の外郭団体「情報処理振興事業協会」(IPA)が、平成5年度の第3次補正予算で開始した「特定プログラム高度利用事業」のプロジェクトの1つ「教育ソフト開発・利用促進プロジェクト」の主要な実験テーマの1つとして、開始された。対象となる全国100カ所程度の小・中・高等学校、特殊教育諸学校等を一般公募し、108校及び3カ所の視聴覚センターを含め111校を決定した。

日本中の約100校の小中高等学校をインターネットにつなげ、学校でどのようにインターネットが使えるのか可能性を追求するというプロジェクト。正式に学校にインターネットが入ったという画期的なプロジェクトだった。

(2) 新100校プロジェクト (1996-1998)

100校プロジェクトに続き、「高度ネットワーク利用教育実証事業」として、1996,7年度の2年間、「国際化」「地域展開」「高度化」を事業の3本柱に実施された。

(3) こねっと・プラン (1996-)

小中高等学校のすべての先生、生徒が教育の場で、インターネットやマルチメディアをもっと使えるようにと1000校を対象に始められたプロジェクト。1000校プロジェクトともいわれている。

(4) Eスクエアプロジェクト (1999-2001)

(5) Eスクエアプロジェクトアドバンス (2001-)

100校プロジェクト・新100校プロジェクトの後を受けて実施されたプロジェクト。2002年をターゲットにインターネットを教育の場でどのように活用すればよいかを実践を通じて調査研究を行う。

授業における有効なIT活用の要件および方法について研究・改善した成果を体系化し、ITが教育・学習に役立つことを定型的に提示することによって、本事業参加者以外のものでも、ITを活用した授業を実施する際の不安・課題に対する解決策となる情報を、学校等教育機関及び

企業に提供することを目的とし、初等中等教育における I T の有効な活用と、I T リテラシーの的確な向上を図る。